

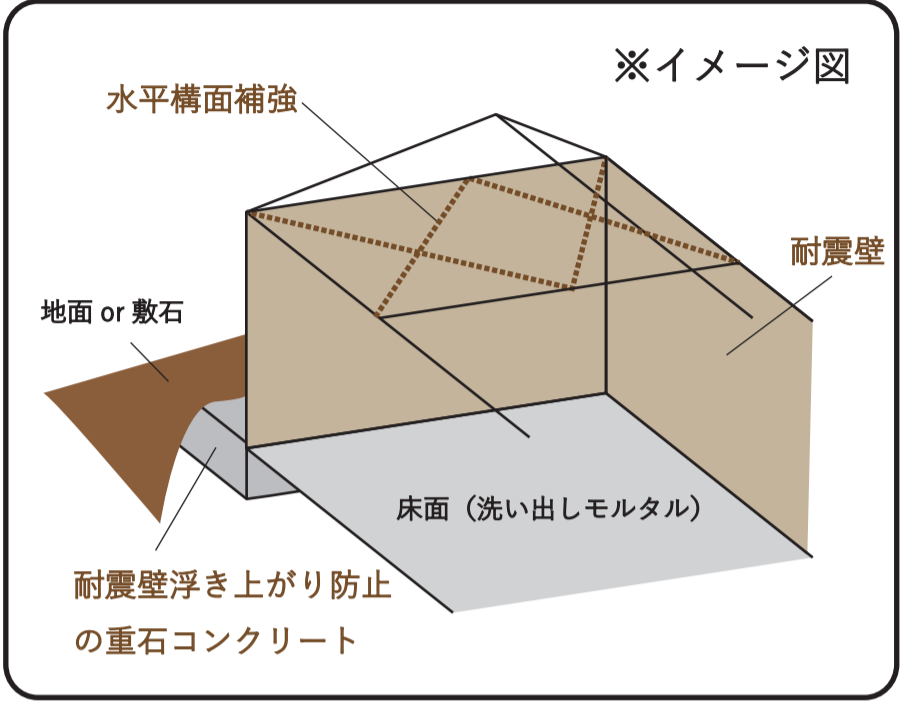
工事の げんば 現場より

いま ようす
今はこんな様子だよ。



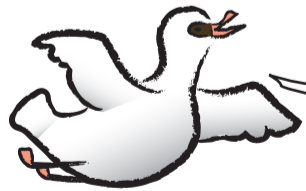
7月2週目

平成30年度より始まった臨春閣の工事もいよいよ大詰め、最後は玄関棟の工事を残すのみです。耐震補強工事として、垂直方向の補強である耐震壁の設置と、水平方向の補強である水平構面補強、建物の浮き上がり防止のための地下への重石設置工事が行われ、その後壁や床の表面の復旧を行う予定です。



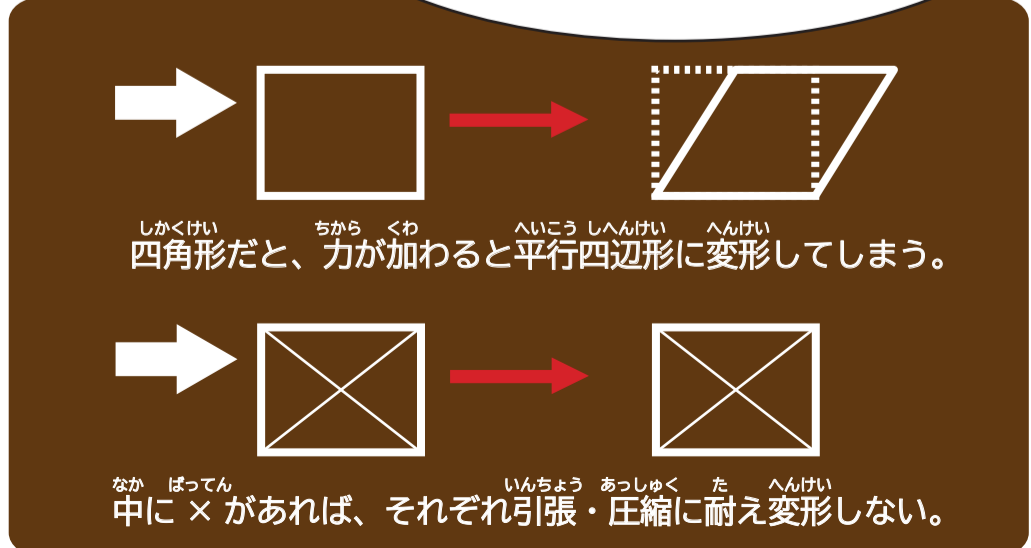
▲工事前は「木摺壁」という「木摺」という薄く細い板を張り付け、その上に壁土を塗った伝統的な壁でした。耐震性を高めるため、頑丈な構造用合板を全面に貼った耐震壁に改めています。この後この表面に土壁を復旧するため、見た目はほとんど元通りになります。

▲耐震壁浮き上がり防止用重石のコンクリート施工作業の様子。古建築修理ですが、ここだけ現代建築の工事現場のよう。



鋼材だから細くても強度はバッチリ。それに×形につけるのは、力を担うのに効率的な取り付け方なんだよ

?!
こんな細いもので頑丈になるの？



▲小屋裏の水平構面補強。見た目に影響の少ないシンプルな補強材を選んで取り付けました。